

ケアマネ通信おびひろ

第50号

帯広市介護支援専門員連絡協議会

発行 平成28年1月21日

発行責任者 佐藤 勇宏

《目次》

1. 平成27年度 第1回学習会「事例検討会」(居宅介護支援事業所大地のはな 山屋靖子さん)
2. 平成27年度 第1回研修会「高齢者の消費者被害防止について」
(居宅介護支援事業所白樺 矢川直美さん)
3. 日本介護支援専門員協会全国大会 in 千葉 (指定居宅介護支援事業所向日葵 中川小百合さん)
4. 北海道介護支援専門員協会北海道ブロック研修会(地域包括支援センター愛仁園 渡辺こづ江さん)
5. 平成27年度 ケアマネ交流会 (居宅介護支援事業所大地のはな 神田剛志さん)
6. 癒しのオフタイム (指定居宅介護支援事業所ピリーブ 小原友香理さん)
7. ケアマネの輪 (指定居宅介護支援事業所ふあ〜すと 赤岡桃子さん)

平成27年度第1回学習会「事例検討会」 ～施設から在宅に戻ると機能低下が予測されるケース～

居宅介護支援事業所 大地のはな 山屋靖子

「退所して在宅生活に早く戻りたい」とリハビリを懸命に行っている利用者様の支援を事例検討として行ってみて、課題の抽出をグループで話し合った際に、生活面・身体面それぞれで出来る事、出来ない事を出していくと20以上の課題が上がりました。

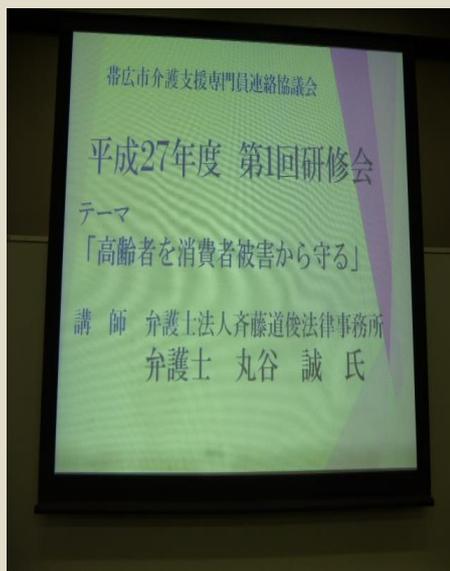
一人の方を支援するために「いつ」「どこで」「誰が」「どの期間で」などタイミングを明確にし、同じ目標に向かってスムーズな支援をしていけば、その方の望む生活の実現が早くなりより自立に近づき、今後のリスクや出来ない事も出来る可能性をみんなで考え、伝えて多方面から情報を提供してもらい、老健・在宅各々で組み立ててスムーズに在宅へ移行出来るよう、前向きに行っていく事が重要であると感じました。



老健は入院から在宅復帰に向けての機能回復の場があって、在宅生活を支援するために、少しずつ心身機能が低下し、今まで出来た事が出来なくなった時に再入所し回復させる場でもあり、オーダーした生活に近づけるようにリハビリを行ったり、ケアマネ・家族から依頼していく事も可能である事を改めて学び、今後、このようなケースの利用者様を担当した時には、積極的に声を上げていきたいと感じました。

平成27年度 第1回研修会 「高齢者の消費者被害について」

居宅介護支援事業所白樺 矢川 直美



「皆様こんにちは、帯広弁護士協会の方から来ました丸谷誠と申します。ここで私のことを疑わずに弁護士だと思った皆さんも被害者になるかもしれません。」との冒頭から講義が始まり、弁護士ひとりひとりに登録番号があり弁護士バッチの裏に明記されていることを教えていただきました。

消費者被害の実態として平成 26 年度全国での特殊詐欺事件の被害額は約 560 億円にのぼりうち 65 歳以上の被害が全体の 78%を占めています。帯広警察署管内での被害も平成 26 年度 8350 万円（十勝管内には他に 4ヶ所警察署があり更に多額の被害が予想されます）との金額に驚きました！

特殊詐欺は明らかな犯罪行為だけれど、住所がなく訴状を送れず法律が意味を持たないため、時後救済が極めて困難で予防するしかなく、弁護士として無力を感じるとのこと。

特殊詐欺の多くは電話から始まることが多く「知らない電話には出ない」こと、また本人がだまされたことを認めたくないことも多く「本当に信用できますか？」「誰にでも起こることですよ。心配しないでください」などの声かけが良いようです。憎い詐欺グループの被害に遭わないよう毎月利用者さん宅を訪問するケアマネジャーとしては、悩み事や心配事を話していただける関係作りが大切だなあと改めて感じる機会となりました。「もし被害に遭った場合は利用するスタンスで丸投げしてください！」との心強いお言葉をいただきました。相談窓口は消費生活アドバイスセンター、帯広弁護士協会、法テラス釧路等があり相談のみの場合は料金もかからないそうです。丸谷弁護士さん貴重な教えをありがとうございました。



日本介護支援専門員協会全国大会・千葉

指定居宅介護支援事業所向日葵 中川 小百合

平成27年10月2日～3日の2日間日本介護支援専門員協会全国大会に笠松会長とあかしやの濱さん、愛仁園の塩見さんと共に参加させていただきました。

2日当日の天候は強風で、飛行機が飛ばないのではないかと心配する中、無事千葉に到着できました。後からの情報によると私たちが利用した便以降は欠航だったそうで、なんとも幸運な大会参加となりました。

今回は「私たちの“しんか”を考え“共に育ち・共に生きる”～地域を育み多職種と結び合う～」という大会テーマのもと、千葉県介護支援専門員協議会を中心に、埼玉、東京、神奈川の介護支援専門員、厚生労働省、千葉県医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語療法士・社会福祉士、高齢者福祉施設、老人福祉施設などなど、様々な団体が共催、後援し盛大な大会でした。

●ストレンクス視点で社会の偏見を生まない支援を●

1日目は「認知症の人の生活を“しんか”させるために～地域を育み多職種と結び合う～」をテーマとしたシンポジウムと「多職種連携による在宅医療・在宅生活を考える」をテーマに記念講演が開催されました。

シンポジウムではアルツハイマーと診断された当事者で日本認知症ワーキンググループ会長、認知症疾患医療センター長、摂食嚥下リハビリテーション研究室教室教授、健康科学部栄養科教授、在宅医療委員会委員、介護支援研究協議会副理事長という顔ぶれで行われました。

その中で、認知症当事者の方は診断当初「できないこと」を考え社会の偏見と、自分自身が認知症についての偏見があり自分を見失っていたが、「自分にはできることがある、できないことがあっても自分であることに変わりがない」と考えるようになり、認知症についての講演、支援組織の集まりなどに参加して様々な人々と出会いながら生きがいを模索していると話されていました。私は「ストレンクスの視点」と頭の中にはありながらも、実際のアセスメントの場面になると問題点やできないこと探しをしてしまいます。これが「社会の偏見」となり対象者様の落ち込みや絶望、意欲の低下を招いてしまうこともあると肝に銘じておかなければならないと思いました。また、認知症の方が希望されることとして、衣食住が足りているだけでは不十分で仕事やボランティア活動などを通じて社会の一員として役割を持ち自分の存在理由を確かめたい。社会に出て行き、買い物をしたり、外食をしたり、おしゃべりをして認知症になる前と変わらない生活をしたい。と話されており、「多職種」とは医療関係者や福祉関係者のことではなく、社会にある全ての職種のことであり、まさに地域との連携なくしては支援していけないのだとあらためて考えさせられました。

大会1日目が終了し、フロアに出て驚いたことが、終了直後にも関わらず、千葉県介護

支援専門員協議会の方が大会の号外を作成し配布していたことです。なんと素早い仕事でしょう。大会の写真や1日目の講演のまとめなど、細やかに記載されていて感動しました。

●業務の時間配分を明確にしサロン等に参加する時間を確保●

2日目は研究事例発表会として「医療と介護の連携」「地域包括システム・ネットワーク構築」「主任介護支援介護支援専門員の活動・教育」「介護支援専門員の地域活動と多職種連携」「ケアマネジメントの質向上・インフォーマルサービス」の5つ分科会があり、その後「今後の制度改正で問われる介護支援専門員の未来（しんか）像」というテーマで教育講演が行われました。

私が参加した分科会で心に残ったものを2つご紹介させていただきます。

1つ目は「評価基準の明確化から考える地域貢献と経営バランス」という発表です。ケアマネジャーの業務は多忙でありながら居宅介護支援事業所の経営状態はマイナス収入が多い状況で、1日の労働時間の中でどのような業務を行い、どのような業務にどれくらい時間を使っているのか時間配分を明確にしたという報告でした。利用者や家族の面会時間を1人10分前後、担当者会議を30分以内で纏めるようにしたことで何を重点的に伝えるかを意識するようになり、地域主催のサロンや会議などに参加する時間を確保しているとのことでした。経営が成り立つ状況の仕事をするとなると多忙になりますが、要点をまとめた電話連絡や報告、訪問や会議などを行うことで時間を作っていくように心がけていこうと思いました。

2つ目は「配食・共食サービスを実施して」という題での発表です。一人暮らしの方が会話しながら食事ができることで食が進むのではと考え、ボランティアを募集・研修し、利用者宅に配食弁当を用意してボランティアが1時間程度訪問し、一緒に弁当を食べるというものでした。結果としては希望する利用者は考えていたより少なく、利用し方の意見としては肯定的なものだけでなく、「ボランティアに気を使う」「他の人が家に入るのは疲れる」という意見も多く、一方ボランティアの方々は満足度が高かったとの結果があり、考察として自宅でのボランティアサービスの限界が表れており、利用者が少なかったのは「孤独がちな人はそもそも自宅に他人を入れるような状況になっていない」とあげ、今後は配食サービスの付加価値サービスとしたり、傾聴ボランティアの一形態として外食を共にするなどを考えていきたいと結んでいました。

この発表を聴いて、支援が支援している側の自己満足になっていないか、本当に満足してもらうためには、どのような工夫が必要なのかを常に模索することが必要だと感じました。

大会の最後は閉会式と次年度開催地挨拶です。次年度の開催地はみなさんもお存じだと思いますが、北海道です。北海道から参加したケアマネジャーがクラークさんとメインテーマ「Care Managers, be ambitious ～介護支援専門員よ大志を抱け！～」とプリントされたTシャツを着て壇上に上がり来年の大会をPRしてきました。

有意義な2日間の大会に参加させていただき、ありがとうございました。皆さんもぜひ次回参加してみてください。

北海道介護支援専門員協会 北海道ブロック研修

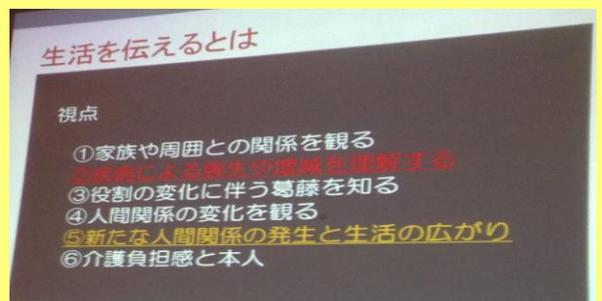
地域包括支援センター愛仁園 渡辺 こづ江

平成 27 年 10 月 17 日午後～ホテルロイトン札幌にて、一般社団法人日本介護支援専門員協会 北海道ブロック研修会（第 10 回日本介護支援専門員協会全国大会 in 北海道プレ大会）に参加させていただきました。

はじめに、一般社団法人日本介護支援専門員協会(JCMA) 鷲見よしみ会長より「研修体系と日本介護支援専門員協会と介護支援専門員」というタイトルでお話がありました。

まず新研修体系の基本的な考え方として「実践できる専門職として養成」するということを強調されました。ポイント①実研修として実務研修と実務従事者基礎研修を統合する。ポイント②専門職として習得しておくべき知識・技術の到達目標に達しているかどうかの確認のため、研修終了時に終了評価の実施を導入する。ポイント③専門研修Ⅰではケアマネジメントを実践するうえで必要となる認知症やリハビリテーションなどの専門的な知識・技術の修得など、専門職として自己研さんしていくことの重要性の意識付けを行う。ポイント④専門研修Ⅱは更新研修にもなり、自分で地域に目を向けるようなグループワークが中心。ポイント⑤主任研修は人材育成・地域づくり・ネットワークの構築などをカリキュラムに入れる。そのため、事例を持ち、かつ指導できるケアマネが対象。といった説明がありました。

鷲見会長は、常に次の改定を見据えて、準備を整えておく必要があると強調されていました。そのため介護支援専門員の職能としての自立が求められている、JCMA はその責務を担っていく用意があると、多くのケアマネジャーの加入の呼びかけがありました。



その後北海道ブロック会議にも出席させていただきました。北海道内各地域のケアマネ組織の活動発表があり、私も帯広市ケアマネ連協の活動を紹介させていただきました。各地域の組織形態や活動内容は、本当に様々でバラエティに富んでいました。日本介護支援専門員協会が設立されたとき、様々な事情で各地域のケアマネ組織は、活動が休止したり停滞してしまったりしたところもあったようです。そういったことを聞くと、我々の帯広市ケアマネ連協は歴代の会長が積極的に引っ張ってくださり、また会員の皆様の応援で活動を維持することができたのだと感じました。

皆さんご存じの通り、平成 28 年 10 月 15,16 日とロイトン札幌で「日本協会第 10 回全国大会 in 北海道」が予定されています。

今回の全国大会を契機に、北海道内の地域ケアマネ組織がもう一度ネットワークを構築しませんか？といった呼びかけがありました。地域組織間の情報共有やフォーラム的なイベントを開催し、地域組織運営を応援していこうというものです。今回は具体的にはありませんでしたが、道協会や日本協会のバックアップも検討されていました。

ケアマネジャーの道は誰かがつけてくれるものではなく、自分たちが作り出していくものだと感じた研修会でした。ありがとうございました。

平成27年度 ケアマネ交流会 ボーリング大会

居宅介護支援事業所 大地のはな 神田 剛志

11月27日に、昨年に引き続き大盛況だったボーリング大会が開催されました。大雪にも負けずみなさんお疲れ様でした。

昨年の交流会以来となるボーリングにどうなるかと不安を感じていたら予想的中！思い描いたようにはいかず、ボールは右へ左へ…思わず「そっちじゃないよ～」と叫びたくなる結果に。

それでもレーンに関係なくみんなでハイタッチをしたり大盛り上がり。

日頃お話のする機会の少ない他事業所のケアマネさんとも交流ができ非常に楽しい時間を過ごすことができました。

ボーリング大会終了後には表彰式&懇親会を“いろはにほへと”で行いました。

恒例のじゃんけん大会などを行って行く中、ふーみんさんが見事優勝され、けんたろうさんのV2は阻止されました。そんな中、主催者から「景品の中にケアマネ通信の原稿依頼が入っている」とのこと。まさかと思いつながら開けてみると大当たり！思わぬサプライズがありながらも本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。

また、今回初めて総務部として関わらせていただき、景品の買い出しや準備等少しでも皆さんに楽しんでいただくよう一生懸命企画しました。

次回の交流会でも多くの会員の皆さんに参加していただき交流を深めることができればと思っています。



素晴らしい選手宣誓の場面です。



あちこちでハイタッチ！大いに盛り上がっていました。



参加した会員のみんなで楽しく交流を深めることができました。お疲れ様でした。



ふーみんさん優勝おめでとうございます

癒しのオフタイム

～私のお気に入り～



1日の疲れを癒してくれる私の楽しみ

指定居宅介護支援事業所ビリーブ 小原 友香理

ケアマネジャーの仕事を始め、9か月が過ぎました。今までの現場での仕事との違いに戸惑い、心が折れそうになりながらも利用者さんの笑顔に元気づけられながらやっています。

介護の仕事に就いて6年半になります。まだまだ分からないことだらけで毎日が勉強の日々です。皆さまには、これからもご迷惑をおかけしますが、自分なりに精いっぱいやっていきたいと思っています。ご指導よろしく願いいたします。もともとお年寄りと接するのが好きだったため始めたこの仕事。少しでも利用者さんの笑顔が見られる様これからも日々努力していきたいと思っています。

私の日々の癒しや心の支えは家族や友人と過ごす時間です。帰宅後には子供たちの笑顔に癒され、寝顔に癒されています。

趣味といえるものはあまり見当たらないのですが、今の時期ですと休日に友人を集めて鍋をしたり、夏ですとバーベキューをしたりします。休日の過ごし方は友人と語り合うことが多いかもしれません。

後はドライブが好きなので、子供や友人を連れてドライブにも出かけます。今年は知床の温泉へ行き一泊。帰りは、摩周湖など寄りながら総移動距離650 kmを一人で運転しました。さすがに次の日は疲労感が出ていたかもしれません・・・。

しかし、一番のオフタイムの過ごし方といえば、子供が寝た後のビールが一日の疲れを癒してくれます。

つい先日、祖母の米寿のお祝いをしました。祖母は子供、孫、ひ孫に囲まれて、とてもうれしそうにしており、長生きするっていいことだと改めて感じました。

これからも日々勉強させていただきながら、頑張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。





ほっと一息できる時間を大切に充実した毎日

指定居宅介護支援事業所ふぁ～すと 赤岡 桃子

皆様、初めまして。日頃より、お世話になっております。

今年7月より、「指定居宅介護支援事業所ふぁ～すと」に勤務しております

赤岡桃子と申します。ケアマネとして働く前は、介護老人保健施設で介護職員として介護の仕事に携わっておりました。

施設介護では、利用者様から学ばさせていただく事は多く、沢山の経験を得られました。今回資格取得を機に、新たな分野での挑戦として、在宅のケアマネジャーとして働こうと思い現在に至っております。

わからない事がわからない、余裕がなく目まぐるしい日々ですが、ケアマネジャーとして尊敬でき、頼りになる先輩方に囲まれ、アドバイスやフォローをしていただきとても心強く、感謝しております。

勉強の機会も多く、とても恵まれた環境に幸せとやりがいを感じながら充実した毎日を過ごしております。

休日は、ほっと一息のできるカフェに行き、のんびりとスイーツを食べてパワーをチャージしております(*^^*)

皆様には、多々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



【介護支援専門員連絡協議会からのお願い】

★連絡先や勤務先が変わったり、苗字が変更になった場合、HPにある「**入退会・変更届出書**」の書式を活用して速やかに届け出てください。

★会員への情報配信は可能な限りメールでの配信をお願いいたします。**メールアドレスの登録についての協力をお願い致します。**

★新規入会は随時受け付けています。入会申込書は、**ホームページ**から入手できますので詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

(事務局 帯広市社会福祉協議会 金井)

～編集後記～

平成 28 年 みなさまあけましておめでとうございます。

今年もよろしく願いいたします。

ケアマネ通信も節目の50号を無事迎えることができました。

改めて、歴史を振り返ろうと思い、通信のバックナンバーを読み返してみましたが、50号を迎えるまでにたくさんの方々のご協力があったの賜物であることを実感しました。

歴代の編集長のような魅力的な編集はできていませんが、これからも自分が担当している間は精一杯努力していこうと思っていますので、よろしくお願い致します。

編集長 TS